

『能 ロミオとジュリエット』 感想集

Comments on Noh Romeo and Juliet

(はじめに)

2015年12月8日、東京千駄ヶ谷の国立能楽堂で初演された『能ロミオとジュリエット』について、多くの方から大変貴重なご感想やご意見をいただきました。多くの方にお読みいただきたくここにまとめて掲載させていただきます。なお、研究に関わる批評等のいくつかは別項目にさせていただきました。また、掲載につきお断わりしてない方もありますが、ご了承願います。

——上田邦義

(ご意見・ご感想)

・目の前に広がる優美な世界に、最初から最後まで魅入ってしまいました。お囃子はいつ聴いても美しいのですが、今回はとりわけ美しく胸に響きました。また、薬を飲んで眠るジュリエットが、とても綺麗でした…。(このあとに悲劇が起こってしまうのですが…)先生の作品の中には、必ず救いがあるように感じます。とても貴重な体験をさせていただきました。

青木加実・月読かぐや (舞踊家)

・ロミオとジュリエットが昇天していく場面で涙が出そうになってしまいました。何故自分が感動したのかじっくり考えてみましたが、やはり能と言う表現形式においてもシェイクスピアを理解でき、共感できるという新しい発見があったからだと思います。そもそも様々な表現形式を生み出す芸術・芸能の目的とは何かを考えるに、それは共鳴・共感であると思います。美しいこと・醜いこと、楽しいこと・悲しいこと、幸福・不幸、これらの感情を様々な表現形式の中に自己投影し、共鳴・共感する。それが実現した時に、その芸術・芸能はその存在価値を見出すのです。さらに共鳴・共感したいと思うのは「いきもの」の根源的欲求であり、これがあるからこそ人間も動物も個と個が繋がり種が繁栄する。そんな気がします。シェイクスピア物の舞台はこれまでかなりの数観てきましたが、能という僕にはあまり馴染みのない表現を通して、やはりロミオの焦燥やジュリエットの絶望が伝わってきました。加えて能舞台の美しさや能の形式美が相まって、独特な世界観が生まれていたと思います。他の演目でも是非見てみたいですね。「マクベス」「リア王」あたりはぴったりかも。もしくは狂言で「お気に召すまま」「夏の夜の夢」「から騒ぎ」とか。これからも楽しみにしております。

青柳倫生 (会社員、東京都練馬区)

・能を観るのは初めてで、シェイクスピアを能で演じるのは、難しいだろうなと思っていまし

たが、先生の脚本が分かりやすかったことや演出も良かったのでとても感動しました。野村四郎さんの舞だけでなく、太鼓や地謡も素晴らしかったです。また、先生の初めの英語でのご挨拶も分かりやすく、とても良かったです。今回の公演が、大盛況だったことをお祝い申し上げます。

秋友芳・貴美子（山形県高島町）

・場内アナウンスのあと、貴賓席(?)で、魅了されていました。会食の後、先生をお探しましたが、お会いできずそのまま帰りました。野村四郎先生とも5-7-5の韻のお話から母の和歌の話でもしたいと思っておりましたが、皆さんと話されていて、機会がございませんでした。でも、とても楽しい時を過ごさせていただきました。どうもありがとうございました。ISHCCの1月例会にはたぶん伺えないと存じます。またお目にかかれますのを楽しみにいたしております。

芦田ルリ (ISHCC 会員、当日日英場内アナウンス担当)

・「能ロミジュリ」のご成功おめでとうございます。昨夜は楽しく、いやおっしゃる通り、リラックスして観てまいりました。悲劇を悲劇として重くせず、若者の明るさ、美しさを強調して、逆に悲劇を浮き彫りにした舞台でした。上演モットーのひとつに、わかりやすく面白い能、を挙げておられました。節、舞、衣裳、演出に、そのための工夫が凝らされていて、格好の能入門になったのではないのでしょうか。すべては円熟の原作者があつたればこそその快挙でした。ともあれ、見事な授章記念の上演でした。せっかくのお計らいでしたが、なにかの手違いでしょうか、SB席での撮影が、どなたからか強く制止され、残念ながらできませんでした。ジュリを見初める舞踏会、窓辺の契り、ジュリの仮死、パリスとの立ち回り、ロミオの服毒、ジュリの後追い自死、大公の登場、ロミとジュリの白装束の霊・・・絵になるシーンの連続でしたが、脳に焼き付けてはみたものの、暗がりスケッチも出来ず、写真が頼りの取材でしたので、たいへん無念な結果となりました。絵のお約束が果たせず申し訳ありません。お許し下さい。再演熱望いたします。

麻生哲郎（画家、東京都大田区）

・当日は大変なご盛況で、終演後のロビーはお客さまが賑やかに集われて、いつもの能公演の後とは全く違う華やきが溢れていました。複式夢幻能形式でいくのかしら、それとも現在能形式かしらと思っておりましたが、とても判りやすい現在能形式を取られておられました。誰もがよく知っている物語をシンプルに構成し、キャストも皆さん適役で、能に慣れていないお客さまたちも悩まず(?)存分に楽しまれたことと思います。先生は今回、最初からこの形で行こうという狙いをお持ちだったのですか?それとも夢幻能という選択もあったのでしょうか。勉強不足で恥ずかしい限りですが、英語能の『ハムレット』なども、どのように作劇されたのか、ご教示いただければ幸いです。

いずみ玲（雑誌『花もよ』能評担当）

・先日は40年振りにお会いさせて頂きましたが、その間の時間を感じさせない元気なお姿で驚きました。能は全くの素人でしたが、台本もあり、非常に楽しく観賞させて頂きました。最後の場面で、悲劇性を和らげる工夫をされていてよかったです。また何かの機会にお会いさせて頂けたらと考えます。先生の益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げます。

内野圭司（元静岡大学学生）

・このたびは先生とのご縁から宿願ともいえる作「ロミオとジュリエット」の初演を家族四人と友人二人で拝観できましたこと、心より感謝申し上げます。「ロミオとジュリエット」は、恥ずかしながらも読んでいたことはなく、今回その真髓を仕立て上げられた能を、配布された台詞によって珠玉の戯曲を味わうことが出来ました。と同時に融合文化の世界の一端をのぞくことが出来ました。娘とその友人も台詞があつて良かったといっていました。台詞の配布をしていて、多くの人は驚きと共に感謝の言葉を口にされていました。普段こういうことはないからでしょうが、公演終えてから日英ふくめて台詞を催促される方が多々あり。多くの観客から笑顔と感謝の言葉を戴けました。演能前のあいさつは聞けませんでした。いつもの上田先生のご配慮あつてのこととつくづく感じ入りました。私たちの役割範囲ではトラブルはまったくなく、いくつかの問い合わせにも誘導にもそれなりの対応はできたかなと思ひました。能自体、わたしにはまだ批評する素養はありませんが、ロレンス法師の衣装とその語りと狂言的役回りは舞台を鮮明にし、かつ好感とユーモアを与えたように思ひます。ロミオとジュリエットの舞は、台詞を手にしてのことですが工夫の跡を随所に感じました。まだまだこれは昇華されていくのでしょう。最後の二人の衣装と舞いは、言い知れぬ感動を与えてくれました。衣装ですが、とくにロミオの衣装は能装束の宿命なのか若さと軽さを印象づけるには今一つと感じました。当日、お花の奉仕(受付とトイレ)をされた関口澄枝さん(小田原市)は、来年もしイタリア公演されるならきっと好評を得ると思うと喜んでいました。いずれにしても来年に向けての、上田先生の大いなる出発準備に立ち会えたことにあらためて感謝申し上げます。私は今回、先生とのご縁を下さった小林典子様のことを思い、10月10日お墓詣り(真盛寺;杉並区)をし、公演のチラシと供物、お花を供え、報告致し、見えざる世界からの見守り、ご鑑賞をお願いしました。当日は小林能装束の脇に立ち、台詞を配っている自分の姿に、小林様の喜びの思いを感じ取ることができました。以上、このたびの公演観賞の御礼と所感とさせていただきます。

梅内千秋 (ISHCC 会員、東京都江東区)

・昨日は『能ロミオとジュリエット』初演、おめでとうございます。実は『ロミオとジュリエット』の芝居をどういった形でも観る機会がなく、昨日の『能ロミオとジュリエット』が初めてとなりました。狂言のナレーションは面白いアイデアだと思ひました。あのストーリーテリングがあるおかげで導入もスムーズでしたし、途中も物語がうまく整理されました。存在だけで全体のアクセントになっていたと思ひます。ジュリエットの登場は息を呑む美しさでした。西洋のイメージですが、手足が細く白いジュリエットも同時に思い浮かべられました。芝居自体は初めてとは言え、大変有名な物語ですから、名シーンや名ゼリフは知っていました。なのでバルコニーの場面はどう表現するのか興味がありました。なるほどうまく能の舞台、そして道具を使い表しているなど感じました。謡いも分かりやすい言葉で作られていましたから意味を捉えやすく、能が初めての方でも楽しめた作品だと思ひました。最後の2人の舞も素晴らしかったです。やはり能なので向こうの世界が映し出されてそれらしさが出ているなど感じました。1時間半の作品でしたがあつという間でした。素敵な作品をどうもありがとうございました。

先生の傑作がまた一つ生まれた瞬間に立ち会えて光栄です。

梅内はるか (コンテンポラリーダンサー)

・能舞台を使ったシェイクスピアの観劇経験はあったものの、能のコンセプトを前面に押し出した作品は初めてとなり、大変勉強させていただきました。

梅宮悠 (早稲田大学文学学術院助教)

・この度は大成功！おめでとうございます。私の方にも素晴らしいお言葉が届いております。今回、ご覧になれなかった方も大変、関心を持たれた方が多くいらっしゃいます。益々のご活躍を楽しみにしております。お手伝いお礼のお言葉を頂き、嬉しく思います。有難うございました。

大山季代子 (ISHCC 会員、静岡県函南町)

・シェイクスピアの名作を、能で表現することの意味とは何か？洋の東西を問わず、「良いものは良い」ということで、そのエッセンスを日本古来の様式美をもって表現し、新たな芸術として楽しんでもらう。素晴らしい事に違いはないが、それではなぜ今、「能 ロミオとジュリエット」なのか？ある人物の一言が浮かんだ。戦前、戦後を通じ、歴代総理の指南役として名を馳せた碩学、安岡正篤である。彼の著書に、このような下りがある。「人間と動物を区別するギリギリ決着のボーダーラインは『敬する』という事である」。何をもって人間たらしめるかの境界線は、相手を敬えるかどうかだという。争い血を流す事の無意味さと、相互理解による和平の大切さを感じさせる本作のテーマは、そのまま、異文化を「敬」し、自国の文化も「敬」するという作者のスタンスに繋がっているように思える。社会が複雑化し、様々な価値観が交錯する今の世の中ほど、「敬する」＝「真の交流」が求められている時代はない。そんな事を考えさせられた、大変に味わい深い作品でした。

小野喜世仁 (会社員、東京都港区)

・8日のお能は大盛会でおめでとうございます。私は能の事には殆ど知識がないので的確な感想も述べられませんが、とにかく1時間半退屈することなく楽しませて頂きました。解説のパンフレットがあったことはとてもよかったです。シェイクスピアをお能になさるというのは、やはり大変難しいと思い、上田先生の挑戦には頭が下がります。私の素人の感想では、シテは有名な方だそうです。ロメオには歳をとり過ぎ。上手なかはわかりませんでした。衣装も良くないし。ジュリエットの方が素敵でした。個人的好みからはパリス伯です。以上全く私のミーハー的感想です。的場先生はかなり御能も観ていらっしゃるのでも全く異なる感想です。伝統的な日本の御能とは全く違う。演出も大胆で驚いていました。お囃子もすばらしく、ことに笛が一番良かったと。何か勝手な感想を述べさせて頂きましたが二人共々、先生の情熱に脱帽です。又お目にかかりました折にいろいろお話いたしたく存じています。

亀山邦子 (熱海市)

・能・『ロミオとジュリエット』初演を観劇してまず感じたことは、舞台進行がとても分かりやすいことだった。その第一の要素は脚本にある。記憶が薄れた原作を読み返してみても思ったことは、登場人物が多いという点である。しかし能脚本では、登場人物が絞られているので、物語の内容が頭に入りやすい効果を挙げているのだ。具体的には僧ロレンスが舞台回し役をつと

めたことで、物語の全体像がつかみやすくなっていることである。そして地謡が的確に物語の流れを表現しているので、観客は脚本を眺めているだけで舞台進行を味わうことが出来たのではないだろうか。上田能脚本の上演モットーに挙げている「初めて能を観る人にも分かりやすく面白い能」が、見事に生かされた今回の能舞台という思いを強くした。

金井治 (ISHCC 会員、東京都江東区)

・上田先生 能「ロミオとジュリエット」 驚きました 進化していて 完成に近づいている 核心の場面を正面から 出会いのソネット 能にできるとは思いませんでした あの場を ゆっくりゆっくり 聴かせて 見せて 能様式ならではの あのシーンを あれほどの輝きで 現出したのは ここ400年で はじめて シェイクスピアで 博士号をいただいた者として 断言したい バルコニーの場を 蓮の台の上として 深い仏教理解は 大拙 ブライス の延長線上の快挙 この物語をどう語るか 法執もなく 「よくやった」の言葉 古川柳に 心中は 褒めてやるのが 手向けなり 素晴らしすぎ (宮西言葉) 驚き 原理を発見したアルキメデスのように 突然走り出し 途中ですが出て ロビーの スタッフ諸氏に 「何をしている? 入って観なさい」と勧め 「食堂のチケットの清算・・・」 裏方の若きお弟子さんに 「見なさい すごい」と言ったのですが・・・ それでは また

川田基生 (名古屋大学講師、ISHCC 副会長)

・上田先生、皆さま公演成功おめでとうございます。無事に上演できたのは、上田先生はじめ皆さま一人一人のご尽力の賜物と思います。本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございます。昨日は疲れが出たのか何もやる気にならず、撮らせていただいたビデオの編集(ほぼパソコンのソフトウェアまかせ)のみちよっとやっておりました。公式の記録物は能楽写真家の吉越研氏にお願いしておりますが、補完する資料になればと思っております。新聞にも幾つか記事になっているようですね。素敵な余韻に浸りつつ、皆さまへの感謝を込めて。

菊地善太 (ISHCC 事務局長)

・この度の能「ロミオとジュリエット」公演に至るまで、学会事務局の一員として、私も色々お手伝いをさせていただきました。12月8日に公演日が決まった6月頃から準備のための仕事が始まりました。我々が主催者なので、舞台以外の事全てをこちらの責務で進めなければならず結構大変でしたが、何とかやり遂げることが出来ました。それは言うまでもなく、それぞれの力を発揮され協力をして下さった方々、事務局メンバーの力の結集でした。何かと苦労もありましたが、少しでも公演成功の支えにつながったのではないかと思います。12月1日に国立能楽堂で通し稽古がありました。広い観客席には演出家の笠井氏、上田先生、大学の先生、関係者などたった数人だけで、私にとっては初めての経験でした。その時に観させていただいた感動というか興奮は今でも思い返されます。「ロミオとジュリエット」がどんな風に能で演じられるのか。何とそれは自分が抱いていた想像の域をはるかに超えたものでした。装束などは当日と同じではありませんでしたが、演者達の情熱がこちらにじかに伝わって来て、古典能とは違う温かさが感じられました。地謡、笛や鼓が演者と一体となり、舞台がまるであのイ

タリアのヴェローナの町の様で、そこで当時の愛ある物語が繰り広げられている感じさえしました。8日に再度公演を観た時には、別な新鮮な感動が私を震わせました。今度はヴェローナではなく、国立能楽堂の厳粛な舞台そのものでした。観客席はほぼ満員でしたが皆、緊張感に張りつめられ、シテとツレの動きにただ目を奪われている様でした。この舞台に込められた演者全員の意気込みに、我々がどんどん引き込まれ、最後の霊の舞いの優美さには心が奪われました。今回は二度、能「ロミオとジュリエット」に親しませていただき、その上、演者の方々と直接言葉を交わす機会もあったので、私にはとても心に残る、そして内容がよく理解出来た能舞台でした。今年のシェイクスピア没後400年に先駆けた意義ある公演であったことは、多くの方々からの賞賛の言葉からも立証出来るのではないのでしょうか。

木下恵美子 (ISHCC 役員、熱海市)

・シェイクスピアの名作「ロミオとジュリエット」を能で表現する、上田先生からお話を伺った時は全くピンと来ませんでした。能面でジュリエットのあの女性としての恋の苦しみを、かつロミオのジュリエットに対する熱い愛を表現できるのだろうか、半信半疑でした。上田先生は過去にもシェイクスピアの名作の数々を能で表現し、それも英語で公演したことも、その時のビデオも見せていただきましたが、あのロミオとジュリエットの男女の愛をそれも悲恋をどの様に表現するのか興味津々でした。しかし、今回の公演を拝見しその様ないわゆる下衆の疑問は一切不要でありました。なんと素晴らしい能公演だったでしょう。能面がまさに人間の表情を演出し、時には涙が本当に出ている様な、時には能面の色が蒼白に変わる様な、変化するはずのない能面がその場面その場面で表情を持ち変化していく様に私の眼と精神はクギ付けになりました。私もロミオに成り代わりジュリエットを強く抱きしめて愛したいという錯覚を覚え、約1時間半の公演は終了しました。私は能は大好きでしたが、今回の公演で益々能の魅力に虜になりました。ありがとうございました。

木下俊男 (公認会計士 米国公認会計士 税理士、東京都港区)

・昨日は「ロミオとジュリエット」ご盛会本当におめでとうございませう。私にとって何もかも初めてのすばらしい体験でございました。舞台上で演じられる決死の愛に生きる青春の情感が端々しく伝わってきて、何だかふしぎでした。能のすばらしい世界に夢見心地になれたのも、やはりはじめの作者ご本人である上田先生の解説があったからだと思ひました。本当にありがとうございました。私共山波財団の会員の方も何人か来てたようです。2人は顔がみえました(新聞記事やチラシを掲示しておいたので、置いたチラシはすぐなくなりました)

熊谷えり子 (山波言太郎総合文化財団)

・公演どうだったのか心配しておりましたが大成功ですね！おめでとうございませう。・・・鑑賞できなかったのはとても残念でした。能の持つ精神世界とキリストを中心とした精神文化の物語をどのように表現したのだろうか、この難題にどのように取り組まれたのだろうか、正にこれが先生の目指す融合の世界なのか、等と勝手に想像しておひます。来年は英国公演への意気込みお持ちとか先生の熱意と情熱には敬服いたします。一途に取り組む姿勢と活躍するお姿

を拝見するたびにとても勇気づけられております。それに「日本で一番かっこいい」と評される白洲次郎氏の様にダンディーで知的な先生には憧れてしまいますね。「日本語の演劇では、どうしても原文の詩的な美しさが表現できない」とのお考えはシャンソンにも言えるように思います。わたくしも原語表現の美しさにこだわり、その伝え方に試行錯誤する日々ですが、身近に上田先生がいらっしゃると思うと本当に心強い思いです。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

佐藤眞弓 (シャンソン歌手志望、山形県山辺町)

・菊地様、皆様。公演の大成功おめでとうございます。なれない公演の作業はさぞご苦労があったと推察申し上げます。上田先生の仰るように献身的な協力がなければ公演は成り立ちません。本当にご苦労様でした。そしておめでとうございます。以下、私の方に寄せられた感想をお知らせします。

杉澤陽子 (ISHCC 会員、観世流能楽師)

・この度は、ロミオとジュリエットの能公演にご招待くださり、本当にありがとうございます。このような西洋ものを日本の古典で表現する能は、一般的な能公演に比べて鑑賞機会が少ないので、大変勉強になりました。その上、初公演ということで非常にわくわくしました。ツレの舞の時に地謡やシテの謡が入ったり、シテとツレが何度も触れ合い抱き合うなど、日頃学んでいる能とは一味違う部分を多く拝見できたので、それも大きな学びです。この他にもまだまだ感想は尽きません。私と一緒に観に行った後輩の中澤(2年)も感動が尽きなかったそうなので、こちらの感想もお伝えしたいと思います。

・新作能という貴重な機会に招いていただき、ありがとうございました。ロミジュリが能でどのように料理されるのかワクワクしながら観させていただきましたが、能の静と現代劇の動がうまく混じっていてとても面白かったです。ストーリーの構成も分かりやすくまとまっており、退屈せずに見れました。色々な部分で勉強になる公演でした。ご迷惑でなければ、またこのような貴重な機会に是非誘っていただきたいです。以上、**中澤**より感想をお送りします。・長文となり恐縮ですが、今回の能はお伝えしきれないほど勉強になりました。本当にありがとうございます。今後とも、どうぞよろしく願い致します。

一橋観世会 久保田祥子

・昨年の薪能のセミナーで紹介頂きました、関口澄枝と申します。天皇陛下より瑞宝中綬章のご拝受、遅くなりましたが、心よりお祝い申し上げます。・・・能舞台に見入り、ロメオとジュリエットを見ていると、公演のモットー、『青春を生きる喜び、苦しみ、悲しみを追体験する』とあるように、過去の自分が蘇り、無心に人を思い無垢に精一杯生きた証の今と重なり、”更に、美しく生き続けよ”と、言われたように感じました。能を見ながら、芸術の意味ある深さに触れることのできた素晴らしい夜でした。心より、お礼を申し上げます。2～3年程前、『シェイクスピア・能をイギリスで上演された』と、ニュースで知り、凄い方がいらっしゃる一人で感嘆いたしておりました。偶然にも、梅内さんに連れられ、セミナー会場に入った中で、際立って穏やかな方が当のご本人、上田先生でした。またセミナーの中で、平和を旨とされ、事の善し悪しをはっきり申され、『NHKの番組のアナウンサーが、能・義経の戦い……。あれは世阿弥の意と違う』と、お教え頂いた時、偶然でしたが同じ番組を見ていた私は、そのアナウ

ンスが嫌で、意味も筋も分からぬままに、パチンと消してしまった事を思い出しました。世阿弥の心も能の深さも知らず、初めて参加した私が、心の奥で、やっぱりそうだったのかと、正解を頂き快くしておりました。その後、ブライズ先生の本を読ませて頂き、”HAIKU”を読みたいと同時に、イタリアの長年の友人の息子さん Giacomo（禅と日本文化が好きで、一昨年、2か月程、私宅に滞在していました。風姿花伝の英語版を記念に差し上げると、その深さに触れ、帰国後、ボローニャ大学で能の講義を受けました）にも読ませようとしていた矢先、『鈴木大拙の本を読んだ。鎌倉にお墓があるから行って見て』と注文が入り、上田先生とブライズ先生の紹介をさせて頂きました。今は、推選で奨学金を得てエストニア大学にいますが、先月、『禅のプレゼンテーションをするから、茶の湯と生け花と禅について教えて、家にある禅の精神に拘る美しい物の写真があったら送って』という申し出があり、先生には、公演前のご多忙を承知のうえで、”HAIKU”の入手法の依頼をしてしまい、迅速な対応をして頂きましたお蔭で”Haiku”も入手でき、イタリアの実家に送ることができました。重ね重ね、有難うございます。不器用な長いメールとなりましたこと、お詫び申し上げます。

関口澄枝（ISHCC 新会員、小田原市）

・先日の能『ロミオとジュリエット』は、本当にすばらしい舞台でした。特にロミオとジュリエットの亡霊が二人で昇天してゆくところは、原作以上に美しい姿で、余韻が強く残りました。そこで先にお願ひしました2月20日（土）の阿佐ヶ谷ワークショップの上田先生のお話の演題は、「能『ロミオとジュリエット』の世界」でよろしいですか。また第2部では、是非、能『ロミオとジュリエット』のテキストを使って先生にワークショップをお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。来年は、1月が休会で2月の先生の講座が最初の「シェイクスピア講座」となります。チラシの先生のお写真は、前回チラシで使用したものを使用してもよろしいですか。それから紹介文もそのまま再掲載したいと思いますが、いかがでしょうか。来年度も阿佐ヶ谷ワークショップ、よろしくお願ひ申し上げます。楽しみにしております。

平辰彦（尚美学園大学講師）

・・・私が今までに観た能のなかで、最も美しい舞台でした。 竹内正人（ISHCC 副会長）
・先日は『ロミオとジュリエット』楽しませていただきました。観能の機会もあまりないので、独特の笛や鼓の調べも懐かしく聴きなされたことでした。強いて言えば、パリスの登場はやや浮いて感じられましたが、私だけの感想かもしれません。公演に先立つ大兄の紹介スピーチも、例によって大変にご立派で感じ入りました。ほとんどお力になれなかったのに、「協賛者」の中に名前を挙げていただいたのは恐縮です。当日ほぼ満席の盛況だったので、ご同慶の至りです。ご自愛の上、ますますご活躍をと祈っております。 田中英史（大妻女子大名譽教授）

台本は歴史的假名遣ひになつてゐると感心しつつ当日目で追つてをりましたが、所々に残念なところがありました。その時に気づいた箇所だけですが、下にあげて置きます。何かに掲載される様な場合には全面的に見直される事をお勧めします。

1 頁下段 誤：掌を合わす 正：掌を合はす
誤：応えまする 正：応へまする。

5 頁上段 誤：疑わしき 正：疑はしき

5 頁下段 誤：赦し合う 正：赦し合ふ

玉置知彦 (奈良市)

・遅くなりましたが、8日の新作能のお礼を申し上げます。主人と行きましたが、とても感動しました。私は能をやらないのでよくはわからないのですが、主人はとても感動して、夜も興奮して寝られなかったと申しておりました。私はロミオとジュリエットのいろいろなシーンをどのように表現できるのかなと思っていましたが、**imagination** を働かせるとこんないろいろなシーンもできるのがおもしろかったです。能衣装も豪華できれいでした。英語の説明もあり、国際的にも展開されているのが分かりました。ロミオの争いを好まないところを重要なポイントとして取り扱っていて、テーマは今の世の中にぴったりと思いました。幽玄のひとつときを楽しませていただきました。有難うございました。

田村真知子 (横浜市)

・この度は、永年ご研究の宗片能「ロミオとジュリエット」国立能楽堂での初演、ご成功おめでとうございます。上演までの宗片先生のご努力に感動しました。演出も笠井様しかできないような演出。シテもツレも後見も熱演で美しい舞台でした。宗片先生のきもの姿での解説も好印象でした。先生には姉とご挨拶申し上げたく存じましたが、かなわず失礼いたしました。シェークスピア能、ブライス先生もお喜びのことでしょう。世界的な大きなお仕事をなさる宗片先生、どうぞ今年も先生のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

・国立の能楽堂の見所埋めし視線あたたか「ロミオとジュリエット」

徳住篤 (跡見学園中学高校謡曲仕舞部元顧問)

・ブライスを共に師とする縁にて宗片能のシェークスピア観る 徳住禮 (横浜市神奈川区)
・先日は、たくさんの方のご来場、大成功ですね。ロミオとジュリエット、とても興味深く拝見させてもらいました。私はあえて台本を見ずに目と耳を集中させておりました。シェイクスピアの物語が、日本の能になると雰囲気がだいぶ変わるんですね。ジュリエットの「ロミオさま〜、ロミオさま〜」のかけ声がなんとも愛らしく思えました。主人公役のお二人はもちろん、大ベテランのことと思います。ただ、私が一番印象に残った演者さんは、牧師役の方でした。声がとても深く響いておりましたし、話す内容もとても聞きやすかったです。上田さんの公演前のスピーチ、とってもよかったです。お人柄を垣間みれたような気がしました。「眠くなったらどうぞ、お休み下さい」とおっしゃっていましたが、私は眠くなりませんでしたよ(´^`´)。先日の『日中韓国友好会』の時の能で、はんにゃのお面が出てきましたよね。とっても印象的だったので、今、はんにゃのお面を題材に絵を描いております。出来ましたら是非、ご覧になってください。英悟の謡いも興味あり、お稽古にお伺いしたいです！

NA (ニューヨーク)

・西洋と日本の融合にご尽力されていることに大変感激致しました。
・西洋の古典を日本の伝統芸術で表現する。大きく違いがあるものの中から普遍的な芸術性を

見出していく取組は並大抵のものではないかと思えます。

- ・会場には若いお客様も見受けられ、初めて能を鑑賞する人にとっても入りやすい作品だと思えます。
- ・日本語としての響きをどこまで違和感が出ないようにどこまで変えられるか、大変な演出だと思えます。
- ・今後沢山上演されて、より演出も聴く聴衆も馴染んでくことと思えます。今後の取り組み（海外公演などの）に期待しております。
- ・今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。有難うございました。

羽深恵美「源氏物語」文学セミナー受講生感想まとめ（熱海市）

この度はご公演おめでとうございました。そして本当にお疲れ様でした。観に来られた2人の知人もとても感動しましたと仰っていました。「来る前にロミオとジュリエットの本を読んできて、今回拝見し、装束もとても綺麗で、お能ロミオとジュリエット感激でした。お能が好きになり今後また観たいです」との事でした。もう一人(山梨の学会に来た関本さん)も「とても良かったです。観る前は自分に分かるかなあと思いましたがとても分かりやすくて、本当に良かったです！」私も先生のご解説は拝見できませんでしたが、『能ロミオとジュリエット』を観させていただき感動し涙が出ました。ロミオとジュリエットの神聖で純粋な愛情が、演者や会場全体から美しいオーラとなり溢れていました。一度死を迎え、その後、ロミオとジュリエットが現れ舞う姿に救われる思いがしましたし、美しく本当に素晴らしかったです。その後も余韻がずっと残っております。先生がどれだけ工夫してご準備に時間をかけられたのだろうか、その創作とご準備のご苦労にも思いを馳せながら、拝見致しました。満席に近い多くの方に足を運んでいただけたこと、盛会でしたこと、有難いことと思ひ、私も今回スタッフとして関わらせていただけたこと幸せに思ひます。先生もお疲れの事と思ひますので、どうかご自愛ください。

平井明余（ISHCC 役員、山梨県昭和町）

・恥ずかしながらシェークスピアの作品の中で、一通りのストーリーを知っているのは「ロミオとジュリエット」が唯一です。また、能や他の伝統芸能についても、今までに数回程度しか観ていません。特に、子供の頃はあまり日本の伝統芸能について興味をもつことがありませんでした。それは、まだ『日本らしさ』がどの様なものか分かってなかったからだと思います。今回の公演「能・ロミオとジュリエット」では『音』『衣装(色)』『動き』『建物』等、構成する様々なものから『日本らしさ』を感じることができ興味と面白さを覚えました。今回とくに印象的だったことが3つあります。一つは『摺り足』です。進む速度が遅すぎてこんなじっくりとした登場の仕方は他で見たことがありませんでした。ためる感じの動きが異様な雰囲気さえ感じさせられました。また、からくり人形が何かの仕掛けでじっくりと進んでいるかのように見えました。所作も意識して見ると面白く感じました。二つは『能面』です。いつ見ても何処となく怖く、ゾクッとするような表情をしているように感じます。想像していたものとは違い、人の顔より小さめにできていることに初めて気が付きその理由が気になりました。三つ

は『お囃子と地謡』です。公演の初めに上田先生がおっしゃっていた眠くなるような心地良さという点には納得ができました。演者から出される太い声のせい、音なのか、またはリズムが影響するのでしょうか、副交感神経が働きリラックス状態になるのかもかもしれません。そして地謡の独特な声の出し方は引き込まれるものがあります。お囃子と一緒にすると物語を声と音だけでどんどん盛り上げてしまうようです。以前オペラを鑑賞した際に、人間の声は楽器より派手なんだと思ったことがあります。今回の地謡の方が出す声も同じような印象を受け、公演後もしばらく耳に残っていました。能にもシェークスピアにもあまり縁がなかった私でも分かりやすく楽しい公演でした。

深沢智子 (横浜市青葉区)

・国立能楽堂は、実はここ 2 年ほどマイ・ブームである。その主催公演に、月 2〜3 回は足を運ぶ。いつもチケットは、前月の発売日に購入し、自宅に送ってもらい、当日は入場するだけである。今回も、幸いチケットは、事前に送付いただき、当日開演の 20 分前に着いたところ、能楽堂の正面入り口に長蛇の列が出来ているのに驚いた。聞けば、チケット受け渡しの行列だという。この様子では、満席なのかな、良かった！と、その時は思いながら、同行の先輩と座席についた。舞台正中に一畳台、その後ろに椅子(と最初は思われた)が 3 つ横に並んでいる。同じ舞台のはずなのに、何だかいつもと雰囲気違って、期待が高まる。入口で配布された詞章に目を通す。活字が大きくて見やすく、老眼には嬉しい。外国のゲストの方々も多く、英文の詞章もあったそうだ。比べてみたいと思った。開演時刻が近づいても、断続的に入場者があり、どうして？と思ったら、チケットの引換に時間がかかったと後から聞いて、裏方の仕事の大変さに同情した。

さて、当初、椅子かと思ったのは、地謡三人の方の見台で、位置も地謡座ではなく、鏡板の前だったが、とてもよく聞こえた。この配置だと、舞台が広く使えて、よさそうだ。普段の能と違うと、同行の先輩姉妹とあとから盛り上がったのは、一畳台の使い回しが絶妙で、お城から寝台になってしまうのには感心した。また、能の中で、横になって寝る、という場面は初めて見た。しかしそのツレ・ジュリエットの寝姿が美しく、見とれてしまった。箱枕が出てきたのにもビックリした。ジュリエットの声は、抜群であった。ジュリエットの面が、日本的なのに違和感がなくとても馴染んでいたと思う。これに対して、ロミオの面は、特注だったのだろうか？伊勢物語の業平のような中将とも全く違う初めて見る面であった。しかし、やや洋風に見える面がとても良かった。また、衣装の豪華さはどれも際立っていて、とても楽しめた。同行者は、侍女の衣装もそれらしく、とても良いと言っていた。霊になったロミオとジュリエットが、面をつけずに、ヴェールと冠をつけて登場したのも新趣向であった。オペラ的だが、あの相舞は素敵だった。やや違和感を覚えたのは、シテ・ツレが切戸口からの退場が多いこと。また、最後、ロミオが自殺、ジュリエットが気付いて剣で自害する前にロミオが動き出したのは、あたかも息を吹き返したようで、何となく不自然であった。また、見所側でいえば、詞章のプリントをめくる音が、少々うるさくて気になった。とはいえ、能の要素を全て見せていただいて、外国の方々にも解り易いテーマでよかったと思うし、アイが進行上、極めて効果的で

あった。どうやって一時間半の舞台になるのかと、興味津々であったが、見事な出来栄えに感心することしきりであった。今回、仕事で伺えなかった夫は、再演を切望していることを申し添えて、感想とさせていただきます。

福田みどり (川崎市)

・以前から一度ゆっくり拝見したいと思っておりましてのでとても良かったです。最近、自分の作品でお面をつけて人を撮っているので動きとかポーズがとても参考になりました。あらかじめ台詞の資料があったのでストーリーも、わかりやすかったです。

前田賢吾 (フリーカメラマン、東京都文京区)

・先日の能楽堂の公演は満員の盛況、舞台も素晴らしく、大成功でした。同行の生徒さんで能に詳しい女性も、初めての能シェクスピアを絶賛していました。私にとっても、とてもよい機会でした。帰りがけ、ロビーに沢山の方がいらっしゃったのでご挨拶もせずには帰りました。Kさんから「行きたかったが、歩行困難で行けず残念だった。様子知らせて」というメールが来たので、大成功の旨お伝えしました。お身体に気を付けて今後益々ご活躍されますよう願っております。来年も良い年でありますように。

松藤梢 (東京都世田谷区)

・ロミオとジュリエットの様な大役は若手ではなく、大先輩が演じるのに驚いたが、やはり声に張りがあるし演技にも重みがあった。・衣装がきれいで見ていたのしい。・古典能より言葉が分かりやすい。

南みどり (東京都世田谷区)

・私が当日行かれなかったのですが、ご紹介した7人の観能者からご感想をいただきましたので、おとどけ致します。

棟居禮子 (横浜市旭区)

・装束、面(ロミオの面は帽子のグリーンが面の色にも映っていたようで良い面だった。ジュリエットの面はふっくらした品の良い小面だった)が良かった。・外国の方が多く、上田先生の英語の挨拶は素晴らしかった。・ロミオの声が小さくて聞こえなかった。再演の時は若い方が演じられれば。・ヴェローナ大公を演じられた方は少し化粧されていたのか?美男子でヨーロッパ風のお顔(鼻が高く、面長で)がすばらしかった。・地謡は聞き覚えのある節などあって、古典能と似ていたが、詞は洋風で、この融合が面白かった。・笛、太鼓が素晴らしかった(ハムレットの時の大倉正之助ですもの。松田弘之さんの笛は、野宮、松虫でも見事だった。悲しい、淋しい時のこの人の笛の音!)・ロミオとジュリエットを中学時代読み、映画も観ていたので、内容がわかっていたので、能「ロミオとジュリエット」はとても分かりやすかった。やはり、バルコニーの場面が家へ帰ってから思い出された。・シェイクスピア能を初めて観たが、こんなに素晴らしいとは思わなかった。旅先でロミオとジュリエットのゆかりの地へ行っていて良かったと思った。・上田先生の和服姿がステキだった。終わって出口でお声をかけたかったが、・・・横浜能楽堂で一度先生に会ったことがある。・能「ロミオとジュリエット」の舞台が目には浮かぶようで(野村四郎、鶴沢久先生他皆さんの声や姿が)。松田、大倉さんの音も聴こえて参りました。舞台の成功は関わった人々全ての力ですが、何と申しまして宗片邦義先生の台本がしっかり出来上がっているからです。

棟居禮子

・全体的にわかりやすく、初めて能を見る方にはおすすめだと思いました。私は、「能ロミオ

とジュリエット」を見て感じたことが4つあります。1つ目は、ロミオとジュリエットの服装が洋風になっていたところ。能=和風というイメージをもちますが、洋風になっていてアレンジされていたと思いました。2つ目は、ジュリエットと乳母の声です。ジュリエットよりも乳母の方が若く感じました。3つ目は、全体の空気や静かさでした。パリとロミオが戦っている間はとても静かなのに、まわりの空気はとてもきんちょうする空気だったのを思い出します。4つ目は、お囃子（はやし）です。お囃子とは、現代でいうオーケストラです。笛と小鼓（こつづみ）と大鼓（おおつづみ）と太鼓（たいこ）で構成されています。私はあまりなじみのない楽器で、どのような音楽を出すのか楽しみでした。とても表現力と迫力がすごくて、聴くことに熱中しました。途中、声が入りました。場面に合わせてかなでるメロディーが激しいのに、所々上品な部分もあり、とてもおどろきました。私は能を見るのは初めてですが、表現もわかりやすく、内容を知っていても不思議とあきなかつたり、すごいなあと思う所がたくさんありました。私はこの作品で、能のすばらしさを体験しました。

村上貴美子（静岡県三島市立中郷西中学校 2年）

・わたしははじめねていてよくわからなかったけど、ジュリエットのふくそうがすごかった。ロミオのふくそうが和風なのによくふうみたいですごかった。おはやしは5人ばやしにしていた。めずらしいがっきがあつてびっくりした。笛ががんばってふいてるなあ、とおもつた。上田先生のおはなしもよかった。能のすばらしさがわかつた。能をやっているときははずかだつた。外国から能を見にきているのがすごいなあ、とおもつた。ロミオとパリ、ジュリエットとうばと、おやこでやっているのがびっくりした。 **村上琴音（三島市立長伏小学校 5年）**

・上田先生、こんばんは！今日は初めての能舞台、『ロミオとジュリエット』はとてもわかりやすく、大変良い思い出になりました。小5・中2の子供と一緒に三島から出かけて行ったのですが、子供たちも退屈したり眠ったりせず、真剣に見てました。外国人と英語で少しお話ししましたよ。有難うございました。

村上多賀子（三島市長伏）

・昨日は本の販売を担当させていただきましたが、一番お客さんが手に取られたのが、“Noh Adaptation of Shakespeare”でした。お求めになられた方々は皆さん研究者の方かなあと思つておりましたが、そのお一人が郡山先生だったので。川田さんによりますと神保町で1冊販売されていたものは高い値段が付いていたそうです。学会誌をお求めになられた方、何年も前に先生の『能ハムレット』を観られたそうで、ハムレットの台本が掲載されているものを所望されました。1冊だけ持って行っておりました『融合文化研究 5号』をお買い上げいただきました。『ブライズ先生、ありがとう』もたくさんお求めになられていました。刊行された時が第一次安倍内閣の時で内閣への提言をされましたが、今また安倍内閣となり、日本は間違つた道を歩もうとしています。今こそブライズ先生が説かれた平和をうたてて行かなければいけません。三五館さんももう在庫はここにあるだけなので、増刷を考えないと仰つていました。平和への思いを込めた『ロミオとジュリエット』堪能いたしました。舞台に惹きこまれると、あたかもそこにヴェローナの街があるように感じました。一つだけ私の意見ですが、

最後のロミオとジュリエットの衣装など少し西洋を感じさせる意図が強いように感じました。とても素敵な装束なのですが、素敵過ぎることで観客に委ねるイメージーション、能の愉しみが少し減ってしまうかと。最初にジュリエットと乳母が登場した姿が自然でとても美しかったのでなおさらそう感じたのかも知れません。しかし「能を知らない方にも分かりやすく」を今回のモットーとされていたので、初めて能を観る方々は楽しめたことと思います。お帰りになられるお客様の満足そうなお顔を拝見してあらためて公演の成功を感じました。懐かしい方々にたくさんお会いできたこと、特にマーカス グランドンに久しぶりに御会い出来たのはとても嬉しかったです。野村先生はじめ、多くの方にお引き合わせいただきありがとうございました。今回も多くを学ばせていただきました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。どうぞお疲れの出ませんように、お身体に気をつけてお過ごしください。

安田保 (ISHCC 事務局長代行、静岡県伊東市)

・知人からの感想です。その方は先生の大ファンで、新作能はどうなることやら、と大変心配しておられたそうですが、装束も含め、いろんな工夫が楽しめ、先生がご立派になされた、節付けも良かった！と感激なさっていました。ぜひ再演されると良い...とも

柳内妙子 (檜書店編集部)

・ロミオとジュリエットのご成功おめでとございます。友人3人も観に来てくれましたが、他にも、新聞で公演を知った知人が観に来ていた様です。それだけ人々の関心が高かったということですね。さて、当日の配布資料ですが、大盛況のおかげで配布資料が残らなかったため、私は残念ながら頂けませんでした。また何かの折でもございましたら、台本等の配布資料を頂ければと思います。今後も学会などに顔を出させて頂く予定です。 山田敦子 (ISHCC 会員)

Atami and *Romeo and Juliet*

In early November of this year (2015) during our last trip to Japan, my wife Iku san and I had the opportunity to call on Ueda Sensei's home in Atami. We stayed with him during three days. From his place up-hill we enjoy a 180° outstanding view of the Pacific Ocean. In the distance on a clear weather one can see Oshima Island. Closer to the coast in Atami waters lies the isle of Hatsushima. And at our feet the city of Atami. The impression we get at a glance is somewhat similar to that we have from the heights of Monaco, with not as many tall buildings though. While we were there Ueda sensei was wholly concentrating on the forthcoming performance of his Noh play "Romeo and Juliet" from the well-known Shakespeare's work. The performance took place on December 8 at the National Noh Theatre at Sendagaya, Tokyo. Since then I heard that the play and his author received a well-deserved success. Most of the seats were sold out long before the date of the performance. Showing a Noh play based on a Shakespeare's piece in front of a

traditional audience in the Tokyo Noh Mecca is undoubtedly a “tour de force” which has to be appreciated at its due value. Ueda Sensei, you achieved a goal you should be proud of. Now we are all looking forward to watching your “Romeo and Juliet” here in Europe.

Jean-Claude Baumier

(President de l'association France-Japon de Cannes 仏日協会カンヌ支部会長)

Thank you very much for the wonderful Noh play last night. It was an unforgettable night, and I was inspired on so many levels. After the performance, I had a similar warmth to the feeling in my body as if I had performed myself, a tribute to the powerful performance of the actors, singers, and musicians. The work you do with Noh and Shakespeare is amazing. I've never been able to appreciate and understand Noh more than I did last night. Such a format communicates with the world! I loved listening to the Japanese translation of Shakespeare's lines, especially some of the more famous ones in *Romeo and Juliet*. Also, thank you for inviting me to the reception. I was so happy to see many old friends and students there, and was even able to make new friends. I only wish I could have stayed longer, and that Yumiko could have come. I will have to write up more of my thoughts when I have a moment, and there are several things I wanted to ask with you regarding the play. However, now I must go to...Congratulations again! Best wishes,

Marcus Grandon (Lecturer at Shizuoka National University)

Wonderful very rich night for both of us Ueda-san, wonderful wonderful people, atmosphere, heart. I was touched by your introduction, you definitely surprised me there. I was also enriched by all the explanations you made about the play and Noh in general, I could see how this could and might need to be integrated into performances overseas. Noh is rather inaccessible to the ignorant spectator, but with the right hints and guidance the experience really changes. Watching the play was for me also 'work' in a sense that very lightly and subtly my brain was working on translating this in the cultural contexts I'm familiar with. We should definitely meet soon Ueda-san. Please bear in mind that for me coming to Atami represents no little financial investment at present, I'm doing all that I'm doing on less than 10 man a month, which needs to pay for rent back in Europe and airplane tickets. Said this, all is possible, it is just a matter of focus creativity and commitment. Let me know.

Nicolas Zampiero (An Italian from Verona)

Ps: will the performance be done again in Japan? **Nic**

(Web 記事等抜粋)

■**毎日新聞ホームページ** (毎日新聞 2015 年 12 月 8 日 地方版)
(<http://mainichi.jp/articles/20151208/dtl/k13/040/148000c> より)

シェークスピアの世界を能楽師らが表現する新作能「ロミオとジュリエット」が 8 日、渋谷区千駄ヶ谷 4 の国立能楽堂で初上演される。来年のシェークスピア没後 400 年に先駆けて、静岡大名誉教授の上田邦義さん(81)＝国際融合文化学会会長＝が企画した。上田さんは、英語で能を演じる活動を 1981 年にスタート。今回は日本語での上演で、「ロミオとジュリエット」の原作をもとに「若者よ、恋せよ。争いを望むな」との思いを込めながら能本を執筆した。シテ(ロミオ)は観世流の野村四郎さん、ツレ(ジュリエット)は女流能楽師の鶴沢久さんが演じる。午後 6 時半開演。当日券 4000 円から。問い合わせは事務局(090・4432・2941)。【明珍美紀】

■**能でロミオとジュリエット 初演に 670 人**

共同通信 47NEWS 2015 年 12 月 8 日 21 時 38 分 (2015 年 12 月 8 日 21 時 39 分 更新)
(<http://this.kiji.is/46938951655065081> より)

来年、没後 400 年を迎えるシェークスピアの代表作を能にアレンジした「ロミオとジュリエット」が 8 日、東京都渋谷区の国立能楽堂で初めて上演され、約 670 人が来場した。これまでシェークスピア作品を能として演じる活動を続けてきた静岡大名誉教授上田邦義さん(81)が手掛けた。「能を初めて見る人にも分かりやすいように仕上げた」といい、来場者には謡曲を理解してもらうために台本を配り「説明がない部分は想像することで楽しんでほしい」と呼び掛けた。日本能楽会会長で観世流能楽師野村四郎さんがロミオ、女性能楽師鶴沢久さんがジュリエットをそれぞれ演じた。

■**能で楽しむシェークスピア 静岡大の上田名誉教授構想**

静岡新聞 NEWS (2015/12/7 18:00)

(<http://www.at-s.com/news/article/culture/shizuoka/177323.html> より)

来年、没後 400 年を迎えるシェークスピアの作品を能で演じる活動が注目を集めている。8 日には日本語版の「ロミオとジュリエット」が東京都内で公開され、欧州の大使らも訪れる

予定だ。能の批評家堀上謙さん（84）は「若い人にもなじみがある作品。能に親しむきっかけになってほしい」と期待している。作品は静岡大の上田邦義名誉教授（81）が3年前から構想を練り完成させた。ロミオとジュリエットが初めて出会う仮面舞踏会などの名場面も能に合わせた表現で盛り込んだ。ロミオ役は日本能楽会の観世流能楽師野村四郎会長、ジュリエット役は女性能楽師鶴沢久さんが務める。

物語の合間に演じる「間狂言（あいきょうげん）」は、シェークスピア作品や能になじみのない人にも分かりやすい内容にしたという。

上田さんは20代のころ、専門の英文学を勉強しながら能を習い始めた。学生時代に「ハムレット」を原文で演じ、シェークスピアの世界に魅了された。同時に「日本語の演劇では、どうしても原文の詩的な美しさが表現できない」と考え、独特の節回しの能で演じることを思い付いた。

試行錯誤の末、英語の原文を能にした「ハムレット」を完成させた。1982年に静岡市内で初公演。たちまち評判となり、その後「マクベス」や「リア王」などの英語能を国内外で披露。さらに日本語で演じられるよう台本を作り直し「オセロー」などを公開した。

上田さんは「来年はシェークスピアが生まれた英国でも公演したい」と意気込んでいる。

（御礼）

能「ロミオとジュリエット」公演 協賛者各位

十二月八日、国立能楽堂に於いて、能「ロミオとジュリエット」公演を無事に終えることが出来ました。公演の主旨に賛同された皆様から多くのご支援とお力添えをいただき、私の三年来の思いが伝えられたこと、本当に嬉しく思います。

当日は、多数の各国大使や外交官たちをご招待出来ました。そして、多くの方々から感動と賞賛のお言葉をいただきました。

演者達も今回の新作能に情熱を燃やして、原作を尊重したすばらしい演技を見せてくれました。

あいにくご都合でこちらにいらっしゃれなかったのはとても残念です。ここに当日の台本入りプログラムをお送りしますので、お目をとおしていただけましたら幸いです。

皆様からの厚いご好意に感謝の気持ちをお伝えして、又、次の機会にお会い出来ますことを期待しております。

二〇一五年十二月吉日

国際融合文化学会会長 上田邦義

台本 別紙。